

自ら課題を設定し、必要な情報を見つけ出し、構造的に整理する力の育成

HYOGO スクールエバンジェリスト 兵庫県立神戸北高等学校 田中 秀樹

本時の目標	校種・学年	高等学校・2、3年
・自己の在り方や生き方を振り返り、興味関心に応じて、自ら歴史的事象に関する課題を設定することができる。 ・設定した課題に対し、仮説を設定して、多くの歴史的事象の中から必要な情報を見つけ出し、歴史的背景を踏まえながら、獲得した情報を適切に整理することができる。	教科・領域	世界史 B
	アプリ・ソフト	・Office365 ・PowerPoint ・Excel
	備考	

○本時の展開

	○学習活動（◆指導上の留意点）
導入	○本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> これまでの授業で作成した PowerPoint の内容を、2名1組で発表し合い、批評する。今後、批評に基づいて、歴史探究を深める。 </div> ○Office365 にログインし、発表の準備をする。 ◆相手の発表に対し、よかった点と改善点を必ず指摘する。改善点は2点出す。
展開	○1 巡目：2名1組に分かれ、順番に発表する。 ◆「共有」機能を用いて、互いの PowerPoint を見ることができるようにする。 ◆よかった点と改善点については、「共有」機能を用いて、Excel に入力する。 ◆発表者は、「課題」「論点」「意見」を簡潔に説明する。調査した歴史的事象については、詳細に説明する。 ○2 巡目：別の生徒で2名1組に分かれる。 ○他の生徒から受けた批評を基に、調査を進め、探究的活動を深めていく。
まとめ	○発表での反省点や批評を振り返る。 ◆発展的に調査を進めることができるよう、次回以降の構想を練る。

育成できる情報活用能力

◎毎時間、Office365 にログインし、授業展開によって、Teams、Word、Excel、PowerPoint、Foams などの機能を使用することで、ログインやソフトの準備に慣れさせ、スムーズに授業が進行できるようにする。

育成できる情報活用能力

◎複数の生徒から批評を受けることで、自分では気づかなかった課題を知り、多角的に考えることができる。
 ◎「共有」機能を使用することで、意見の集約を容易にする。



生徒の感想
・聴くだけの授業ではなく、自分の好きなことを調べることができるので楽しかった。 ・他の生徒の意見を聞いて、足りないところがよく分かった。

<情報活用能力の育成とその効果>

- ・自己の在り方や生き方と結びつけて歴史的事象の中から課題を発見することで、歴史学習に向かう主体性を養成する。
- ・ICT を活用することで知識を活用、整理し、表現する能力の養成を促進する。

ICT×ジグソー法で戦国時代の概観を主体的に学ぶ

HYOGO スクールエバンジェリスト 兵庫県立上郡高等学校 赤羽 隼季

<p>本時の目標</p> <p>・日本の戦国時代を舞台に情報の収集、分析、整理を行い、多面的な視野を養うため中世社会がどのように展開・変貌し、今日とのつながりが深い近世社会の特色を戦国大名による領国経営から考察させまとめる。</p>	<p>校種・学年</p> <p>高等学校・3年</p>
	<p>教科・領域</p> <p>地歴公民・日本史分野</p>
	<p>アプリ・ソフト</p> <p>・Teams</p>
	<p>備考</p>

○本時の展開

○学習活動（◆指導上の留意点）	
<p>導入</p>	<p>戦国時代の概観をつかみ、他者と協働して学習活動を展開する。</p> <p>○6つのグループに分かれ、指定された範囲の戦国大名の分国支配を調べまとめる。</p> <p>○個人の端末を用いて Teams 内の共有スライドに統合する。</p>
<p>展開</p>	<p>○担当した地域の戦国大名に関する情報をスライドにまとめ他の班のグループとジグソー活動を行い共有する。</p> <p>◆各グループで作成したスライドを Teams の会議システムを使って画面共有を行わせる。共有されたスライドをもとに討議させる。</p>
<p>まとめ</p>	<p>○ジグソー活動で共有された情報を、代表班を通じて全体へ発信する。</p> <p>◆発信された情報を自分の言葉でまとめ、Forms を用いて振り返りをさせる。</p>

育成できる情報活用能力

◎グループ内で情報を整理分担しながら戦国大名の生没年を統合することができる。

育成できる情報活用能力

◎戦国時代の概観を時間軸と空間軸の両面からつかみ、各グループの情報をもとに多角的な考察を行うことができる。



生徒の感想

- ・インターネットの情報をそのまま載せると情報の真偽が分からないので、教科書や資料集をベースにすることが大切だと思った。
- ・生徒同士がお互い発表をしながら、ただ要点をノートにまとめるだけでなく、積極的意見やお互いの発表への質問が生まれてよい雰囲気できた。

<情報活用能力の育成とその効果>

- ・自分自身の活動が他者に与える影響が大きいため、課題に対し主体的な姿勢で臨む態度を養うことができる。
- ・情報を時間内に適切にまとめ発信するプレゼンテーション力と、他者の発表に対し質問や意見を生み出す討議力を培うことができる。

調べた情報を根拠にイメージを可視化させ、冷戦期の協調と対立の原因を探る

HYOGO スクールエバンジェリスト 兵庫県立神戸高等学校 大久 孔明

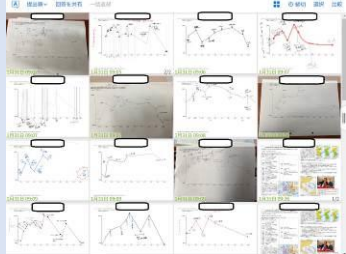
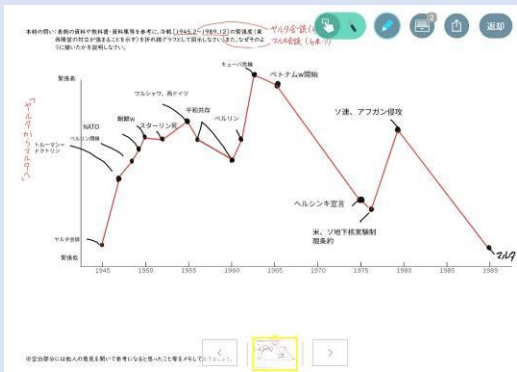
本時の目標	校種・学年	高等学校・1年
・冷戦期（ヤルタ会談～マルタ会談とする）の出来事を概観し、米ソ主導の対立期と、世界が多極化に向かう時期の時代観を形成する。 ・冷戦期の緊張と緩和の可視化を試み、対立の要因を考察する。	教科・領域	地理歴史（歴史総合）・C(3)
	アプリ・ソフト	・ロイロノート ・GoodNotes 等
	備考	タブレット (iPad)

○本時の展開

	○学習活動（◆指導上の留意点）
導入	○「問い」の確認 単元を貫く問い「二度目の世界大戦後、国際連合を設立して集団安全保障体制を築いたにも関わらず、世界中で対立が続いたのはなぜか。」 世界で対立が強まるのはどのような時か。 ◆プリントのデータは PDF 形式にしてロイロノートで授業までに生徒宛てに送信している。
展開	○作業：冷戦 [1945.2～1989.12] の緊張度（東西陣営の対立が強まることを示す）を折れ線グラフとして図示しなさい。また、なぜそのように描いたかを説明しなさい。（個人作業→3人班で意見交換・共同製作→ロイロノートに提出→発表） ◆提出は PDF でも、写真撮影でも可とする。
まとめ	○提出された意見共通点、相違点などを指摘し、プリントに考察したことをまとめさせ、提出。 ○種明かし…3人班の作業＝ヤルタ会談の疑似体験。3人班の作業は、2:1 になりやすい。 ◆毎時間プリントは提出させている。データで提出する者は、PDF で書き出して提出する。

育成できる情報活用能力

◎ グラフを作成する際、ポイントになった出来事を記入させ、グラフの上がり下がり根拠が説明できるようにさせる。写真で撮影させると少し見にくくなるので注意が必要。

↑ 提出状況と提出物の例

生徒の感想
<ul style="list-style-type: none"> ・核軍縮の局面がわかった。 ・知識というよりは、流れとか歴史そのものを学んでいる感じがした。 ・資料を参考にして問いについて考えたことで、思考力が上がったと思う。

<情報活用能力の育成とその効果>
<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて班活動、資料読解、端末の操作を継続していたからできる取組である。 ・視覚的な作品は他者の意見を見ることで共通点・相違点を見つけやすい。共有できるツールが有効に活用できる。